

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県南陽市

自治体名：山形県南陽市

担当課名：学校教育課

電話番号：0238-40-3211

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	160.52 km ²
人口	29,274 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	749 人
部活動数	38 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市中学校における生徒数の減少は著しく、部活動の休部や廃部などで取り組みたくても希望する競技が設置されていない学校や、部活動があっても部員不足で合同チームで大会参加している数が増加傾向にある。

本市は、令和5年度より検討委員会を設置している。検討委員会では、令和5年度から7年度までの3年間で、**段階的に休日の部活動の在り方を見直し、生徒が自由に活動を選択できる環境を整備し、選択の一つとして地域スポーツ・文化芸術活動の場を確保するべく取組を推進している。**

また、**部活動種目を現状のまま移行するということではなく、生徒にできる限り多様な選択肢を提供して休日の暮らしを豊かにすることを目指して体制整備に努めている。**

推進するにあたり、多様な種目に取り組める環境の確保や保護者による受益者負担への理解、指導者の質・量の確保等が課題となっており、今まで以上に各学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、**社会教育施設や社会教育団体等の各種団体と連携するなど、運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制を整えられるよう努めていく必要がある。**

R5 新入大会)

	野球	ソフトボール	サッカー	ソフトテニス	バスケットボール	バレーボール	卓球	剣道	柔道	陸上	総合運動	美術	吹奏楽
沖郷中	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
赤湯中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮内中	●	●	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
地域クラブ				☆			☆	☆					
県中体連登録					◎								

○設置部活動 ▲休部・廃部 ◎県中体連登録クラブ ☆モデル種目
●合同チーム

R6 地区新人)

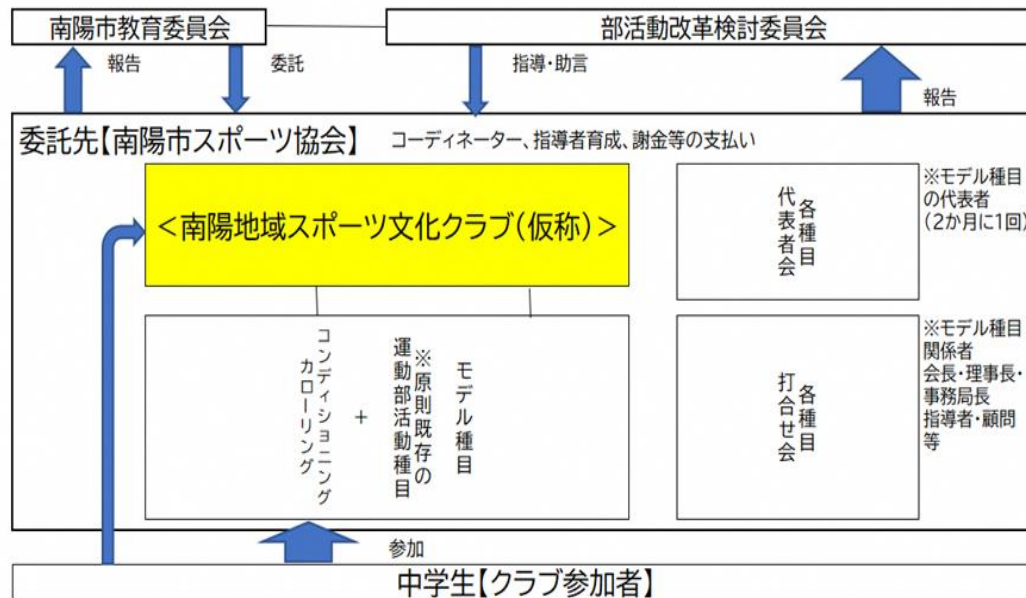
	野球	ソフトボール	サッカー	ソフトテニス	バスケットボール	バレーボール	卓球	剣道	柔道	陸上	総合運動	美術	吹奏楽	コンディショニング	カローリング
沖郷中	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
赤湯中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
宮内中	●	●	○	○	○	●	○	▲	▲	○	○	○	○		
地域クラブ	☆		☆	☆ ₂	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
県中体連登録		◎			◎		◎	◎							

○設置部活動 ▲休部・廃部 ◎県中体連登録クラブ ☆モデル種目
●合同チーム

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・各中学校との調整・連絡
- ・関係団体との連絡・調整
- ・首長部局との協議 等

◎みらい戦略課

- ・教育委員会との協議
- ・他課との連絡・調整
- ・関係予算の計上 等

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回 検討委員会
令和6年6月	モデル種目説明会、申請開始
令和6年7月	第2回 検討委員会 モデル種目活動開始 指導者育成研修会①②
令和6年8月	部活動改革説明会①
令和6年9月	指導者育成研修会③
令和6年11月	第3回 検討委員会 トップアスリート講演会
令和6年12月	指導者育成研修会④ 児童生徒、保護者等アンケート
令和7年1月	先進地視察 部活動改革説明会② モデル種目活動終了
令和7年2月	第4回 検討委員会

※年間を通して、モデル種目を中心に課題の集約
競技団体の担当者との打ち合わせを実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	11 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		9 クラブ（29 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	40 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
南陽柔道クラブ	地域クラブ	柔道	週 3 回	平日・休日： 19:00~21:00	幼児 小学生 中学生 一般	通年	南陽市民体育館	3 人	1 人	年会費 10,000円	中体連：部活動・地域クラブ その他：地域クラブ
南陽FC	地域クラブ	サッカー （新）	週 4 ～ 5 回	平日： 19:00~20:30 休日： 8:00~11:00	中学生	通年	市内中学校 市内高校等	8 人	1 人	月会費 5,000円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
南陽市陸上競技協会	競技協会	陸上（新）	月 1 回	休日： 9:00~11:30	中学生	通年	米沢市陸上競技場 長井市陸上競技場	4 人	1 人	年会費 5,000 円	中体連：部活動 その他：部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
清心館道場	スポーツ少年団	剣道	週3回	平日・休日： 19:00~21:00	小学生 中学生	通年	南陽市民体育館	3人	1人	年会費 12,000円	中体連：部活動・地域クラブ その他：地域クラブ
西部バレーボールクラブ	地域クラブ	バレーボール	週3回	平日： 19:00~21:00 休日： 9:00~13:00	中学生	通年	市内中学校 市内体育施設等	3人	1人	年会費 25,000円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
南陽ソフトテニス赤湯	スポーツ少年団	ソフトテニス	週3回	平日： 18:30~20:00 休日： 7:00~9:00	中学生	通年	赤湯中学校テニスコート	2人	1人	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
南陽ソフトテニス宮内	スポーツ少年団	ソフトテニス	週4回	平日： 18:30~20:30 休日 9:00~12:00	小学生 中学生	通年	宮内中学校テニスコート	2人	1人	年会費 15,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
南陽置賜ゲンキーズ	地域クラブ	軟式野球	週1回	休日 8:30~11:30	中学生	通年	市内中学校 市内高校	5人	1人	月会費 2,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
SHINE.N TC	競技協会	卓球	週3回	平日： 19:00~21:00 休日： 9:00~	小学生 中学生 高校生 一般	通年	市内中学校 公民館	4人	1人	年会費 6,000円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
南陽市カローリング協会	競技協会	カローリング	月1回	休日： 19:00~20:00	幼児 小学生 中学生 高校性 一般	通年	市民体育館	3人	1人	月会費 1,000円	その他：地域クラブ
ヤマガタアスリートラボ	一般社団法人	トータル コンディショニング	月2回	休日： 2時間程度	中学生 以上	通年	市民体育館 他	3人	1人	会費（回） 1,000円	大会なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●トッパースリート講演会及びモデル種目体験会

●各種目における体験会の実施

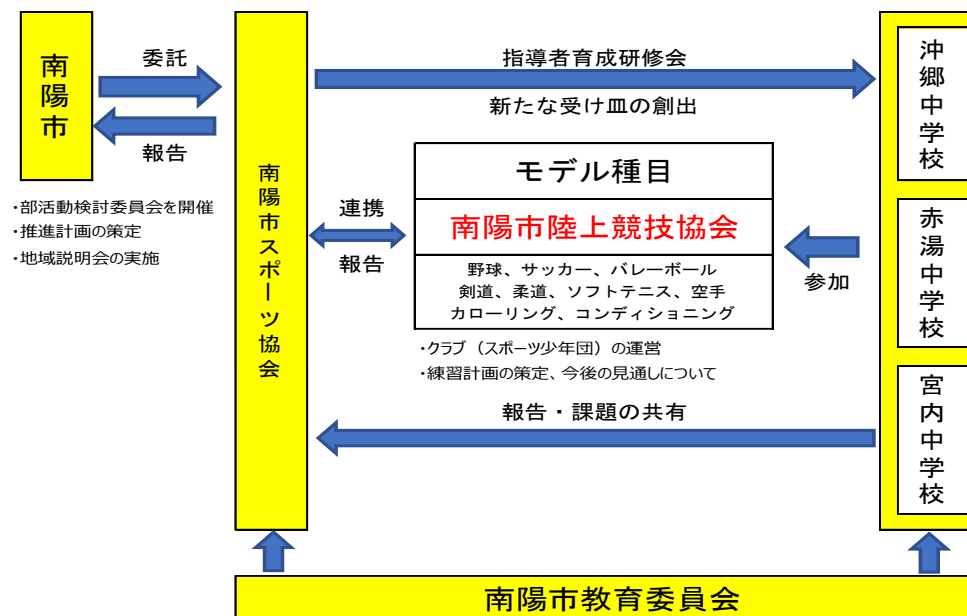
2.実証内容と成果

主な取組例

●南陽市陸上競技協会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	南陽市陸上競技協会
期間と日数	陸上：8月1日～1月31日 月1回程度（など）
指導者の主な属性	陸上競技協会 事務局員
活動場所	米沢市陸上競技協会 等
主な移動手段	保護者
1人あたりの参加会費等（年額）	陸上：5,000円/年（200円/回）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 1名 役割：全体の統括、確認等
- 主任指導者 3名 役割：選手に対して直接的に技術指導を行う
- 運営補助者 1名 役割：日程や会場の調整・確認を行う。指導者の調整を行う
選手の出席状況を確認し、事務局に活動の報告を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・多角的な視点で活動を行う総合コーディネーターを配置し、関係団体・市当局との連絡調整・指導助言等を行う。
- ・生涯スポーツの観点から多世代が交流できるプログラムを推奨し、自立した運営のできる組織体制を構築する。

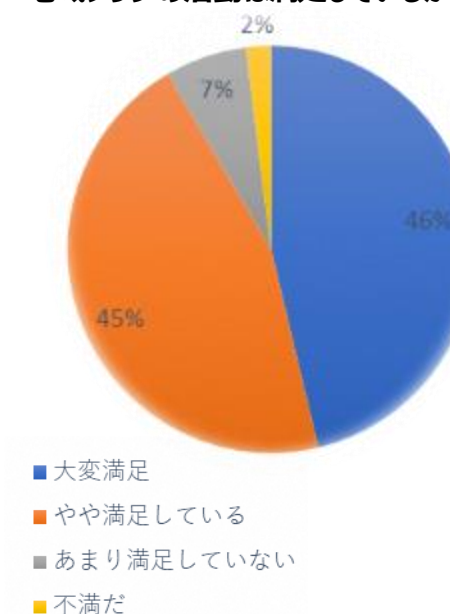
取組の成果

地域クラブ等に参加した中学生201人を対象としたアンケートの結果、回答者の91.5%が「大変満足している」「やや満足している」と答えている。その多くが「好きな種目に取り組める」「技術が向上している」「挨拶や時間厳守など社会性を身につけられる」と肯定的な回答をしていた。活動が充実していることに加えて、教育的な意義についても言及がみられた。

教員の働き方改革の視点では、令和6年11月の中学校教員の時間外勤務時間が前年比で平均7時間削減しており、働き方改革推進の一役をかつているものと推察される。

モデルとなる競技数が昨年度の3クラブから10クラブに増加し、競技団体や関係者との連絡調整が進んだことが伺える。指導者の資格の有効期限（質の確保に関わる）についての課題も見えてきた。

地域クラブの活動は満足しているか



令和6年度山形県地域スポーツ・文化芸術活動に係る実態調査（南陽市）より

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・先進地視察や域内での情報交換会を通して、情報の収集に努めた。各競技団体との打ち合わせで、望ましい地域クラブの在り方やクラブ設立に向けた助言を行った。各団体との連絡調整の中で、中学生の受入可否に関わらず、現有の資源について調査を行い、資源マップにまとめた。

今後の課題と対応方針

- ・中学生を対象とした地域スポーツクラブは設置数が極端に少なかったが、徐々に整備が進んでいる。整備は生涯スポーツの観点でも重要だと捉えており、指導者の質や量の確保が急務である。教職員の兼業も含め、再度希望調査等を実施していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

○指導者（育成）研修会Ⅰ

- ＜内容＞ 講義① ジュニア期におけるスポーツ活動とその指導
※南陽市部活動ガイドラインの説明含む
講義② スポーツや熱中症における死亡・障害事例
実習① コンディショニング基礎講習

○指導者（育成）研修会Ⅱ

- ＜内容＞ 実習② 普通救命講習・けが等における応急処置
情報交換 多種目との課題等の共有

※ 研修会のⅠとⅡの両方を受講した指導者に、モデル種目における
認定指導者として修了証を発行した。

種目

○全種目で必須

資格有無

○資格の有無は問わないが、取得を推奨する

指導者研修の参加実績

・開催日：研修会Ⅰ 7月7日、9月28日

研修会Ⅱ 7月28日、12月1日

・開催回数：4回 ・参加人数：のべ53人

※県スポーツ協会が主催する指導者研修会が本市の研修内容と類似していたため、その修了証を持って市の認定指導者に登録（数名）

受講者の声

研修会Ⅰ

- ・生徒への伝え方、思考の引き出し方など有意義な講習でした。自分の指導を振り返るいい機会となりました。
- ・質問の仕方や声かけで相手への伝わり方が変わると感じたので、指導現場で実践したいと思いました。

研修会Ⅱ

- ・いつどんな場所で行くかわからないので、いざというときに救命や応急手当ができるように知識と実践形式の体験が大切と感じた。これまで抵抗感や不安があったが、今回の研修で解決した。
- ・消防士の方の説明がわかりやすくとてもよかった。この企画は今後も続けてもらいたい。

今後の課題と対応方針

指導者の質と量の確保のため、できるだけコンパクトな研修会を実施したが、指導者の都合で参加できない場合もあり、今年度は別に対応した。市スポーツ協会主催の講演会など、検討委員会で開催する研修以外の機会も認定やリフレッシュのために活用できないか調整が必要である。また、**認定指導者の認定期間を3年と考えているが、3年間の中でスキルアップにつながる研修等についても検討が必要である。**

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・学校と連携して進めていくため、中学校長会で検討いただく場面の設定や教育研究所主催の教職員研究発表会で、小中学校の教職員を対象に研修の場を設定する。
- ・協会や連盟、スポーツ少年団本部、学校関係者など種目別関係者による運営会議を開催し、指導体制について確認、連携する。

取組の成果

- ・市の目指す方向性や現在の進捗について研修をする機会を持ったことで、多くの先生方に理解を深めていただいた。以下はその感想の一部である。
 - ⇒新たな、学校にない競技をあきらめることなく、挑戦したり継続したりすることができるのは、とても恵まれていると感じました。
 - ⇒部活動は、これからも続いていくものかもしれないが、**ねらいは何か、目的はどこなのか、今後も検討していきたい。**
- ・協会や連盟と連携し、関係者との打ち合わせを開催した。今後の体制について共有できたことに加えて、具体的な指導体制について検討いただく場面もあり、地域の受け皿となるクラブの設立につながった。



教育研究所 全体研修の様子

教職員研究発表会 全体研修

- ・日時 令和6年11月6日（木）
- ・参加者数 185人（内訳）
- ・参加者の所属
市教育委員、市内小中学校教職員

ソフトボール競技 運営関係者会議

- ・日時 令和6年11月28日（金）
- ・参加者数 25人（内訳）
- ・参加者の所属
市ソフトボール連盟正副会長、理事長
事務局員、各中学校顧問、保護者会長

今後の課題と対応方針

本事業について徐々に浸透してきてはいるが、より自分事として、多くの保護者や市民に理解いただくことで活動の可能性が広がるものと感じている。説明会の開催を継続することに加え、説明会の内容について、市のホームページ等を活用し、啓蒙を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- ・生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツに親しむ機会の確保に取り組む。
- ・モデルとなる種目に、学校部活動に設置のない種目（カローリング、コンディショニング、空手）を設定し、生徒の志向に合った種目を実施する。
- ・体験会を実施し、これまで経験したことのない種目においても、選択できるようにする。

活動の詳細

参加人数	のべ 280 人（体験会含む）	指導者数	8 人
属性	地域スポーツ団体		
具体的な内容	多様性への対応として、生徒アンケートで記載の多かったニュースポーツやコンディショニングをモデル種目として指定した。実際の活動こそ参加者は少なかったが、参加した生徒のアンケート結果からもわかるようにとても充実したものになった。反面、今後はだれでも参加できる機会を設けていきたい。		
子供の声	● 部活動と違うことにも挑戦する機会があつてうれしい。 ● もっと他の競技にも取り組む機会がほしい。いろいろやってみたい。 ● 休日の開催日時が学校の部活動と重なり、参加したくてもできないことがあった。		
関係者の声	カローリングは、従前の部活動種目にはありません。カローリングをモデル種目の一つとして、今後も周知いただければ幸いです。 コンディショニングは、ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスまで幅広く取り組める種目です。選手としても、そうでなくても活動を提供していきたいです。		
運営経費	・一人500円/回で実施、施設の使用料や指導者謝金、消耗品の購入に充てた。 ・体験会については、本事業より支出し、施設の借用や消耗品については事業費で負担した。		



体験会の様子

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



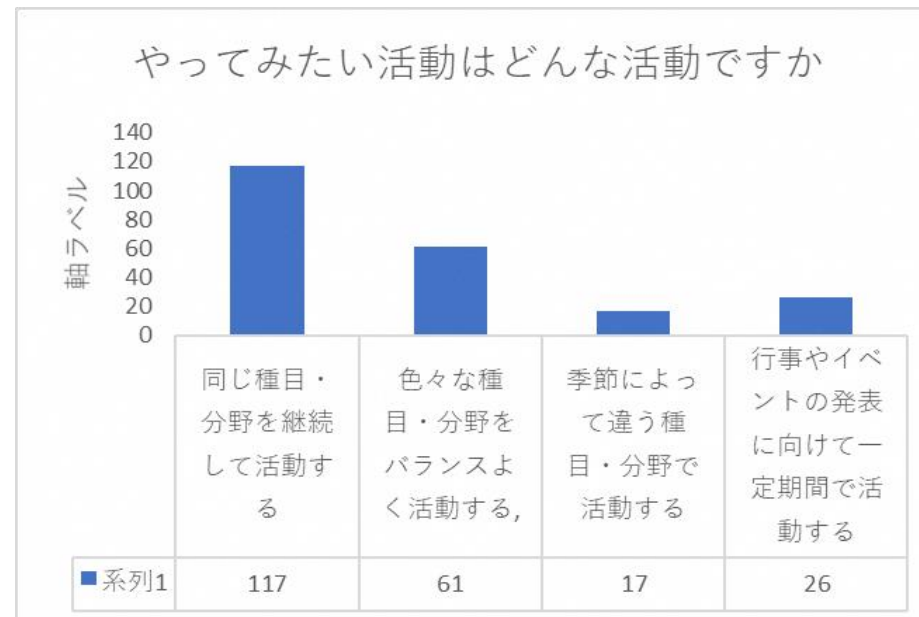
取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

新たな受け皿を創出していくことは、これまで種目が限定されていた部活動とは違い、生徒の志向に合わせた活動が期待できる。特に、少子化の影響で学校部活動が休部、廃部と続く中、希望する競技に取り組むチャンスが創出できる。

実際、アンケートの結果からも、「同じ種目・分野を継続して活動する」が一番多いのに対して、「いろいろな種目・分野をバランスよく活動する」ことを望む生徒も一定数いる。このことから新たな受け皿としての「カローリング」や「コンディショニング」は、いろいろな種目という視点やニュースポーツという視点からも多くの可能性を秘めている。また、小中学生という育成年代に様々な競技に挑戦することが可となった。結果、学校部活動と違う競技の地域クラブに参加している生徒もあり、競技者として一つの競技のみに限定されない活動になっている。



令和6年度山形県地域スポーツ・文化芸術活動に係る実態調査（南陽市）より

今後の課題と対応方針

新たな受け皿が創出され、選択肢が増えていくことで活動内容が充実していくことは、生徒が主体的に選択して活動できることや志向に合わせて複数の競技に挑戦できる意味で大変有意義である。しかし、団体競技については、選択肢が増えた分、選手確保の困難さが増している。すでに選手の確保を大きな課題として挙げている地域クラブも出てきていることから、新

たな課題として選手確保や広域連携を取り上げていく必要がある。特に広域連携に関しては、他市町の地域クラブの考え方が違うことによる弊害もあるため、近隣市町とその在り方についても調整を行い、生徒にとっても互いの市町にとっても実現・持続可能な対応を考えていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

・施設使用や指導者の謝金等、必要な経費項目・金額について支援し、実態の把握を行う。

※指導者の謝金については、部活動指導員と同額の1,600円/時間として検証する。

・困窮世帯に必要な経費項目・金額の調査を実施する。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・地域クラブの立ち上げに際して、競技によっての違いはあるが、競技に必要な備品や消耗品、大会参加等に必要なユニホーム等、一時的に負担が多くなることも推察される。特にユニホーム等に関しては、これまでの学校部活動では、数年に一度更新したものをチームで管理する場合が多く、備品やユニホームの購入には積立での購入が多いようだ。

■ランニングコストの分析

・学校部活動では、部費が存在せず、保護者会費としての集金が多い。保護者会費からの支出は、中体連主催大会以外の大会参加料や施設使用料などに充てられており、クラブを運営する経費と比較すると、指導者の謝金が新たに発生することに加え、施設借用の際に、学校施設を利用するにしても、新たに使用料が発生し、負担が増えそうだ。

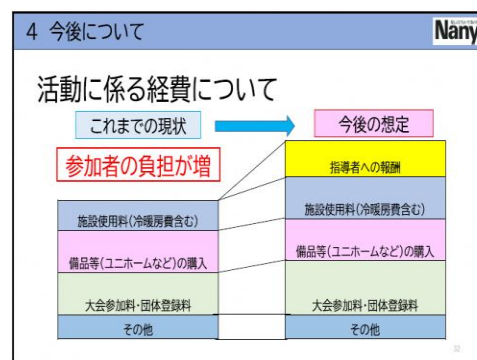
持続的な運営に必要な受益者負担額の試算



R6地域スポーツクラブ体制整備事業
決算より算出

モデル種目での試算では、選手一人当たり月ごとに1,600円から2,500円程度の負担となることが分かった。地域クラブによっては、月ごとの活動回数が異なるため、平等に負担することが相応しいか検討が必要である。

収支バランス



部活動改革説明会資料より

謝金のみでも2,000円程度の負担が生じる。他に施設使用に係る受益者の金銭的な負担や移動に係る保護者の負担が考えられる。受益者の金銭的な負担に、市費等の財源や、新たな財源についても検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

- ・受益者による費用負担の増については、徐々に理解が浸透してきている。しかし、大幅で急激な負担増については、なかなか理解を得られていない。今後も緩やかな負担増となるような配慮が必要か検討する必要がある。
- ・中学生の活動を受け入れ、モデル種目として活動している地域クラブに対し冷暖房費と照明代の補助を行うことによって、持続的にクラブを運営するために必要な資金について検討を行うことができた。また、受益者負担が増えていく傾向の中で、経済的理由でクラブをやめる生徒はなく、結果として貧困世帯への支援にもつながっている。
- ・熱中症が懸念される中で、室内競技は夏場の冷房使用料の負担が増加しており、また冬季間は屋外競技の室内練習場の使用やけが予防のための暖房使用料の費用負担が増加していることが分かった。生徒の安全管理を行う上でも施設利用に関連する費用について今後更なる検討が必要である。

今後の課題と対応方針

これまでの学校部活動では、保護者会費としての集金がほとんどで、中体連主催大会への参加、活動に係る保険料等は学校集金の中から支出されていた。備品や消耗品の購入などは、各学校の後援会組織より支出、負担いただいていたものが多い。そのことについて丁寧に理解いただき、再度費用負担については、保護者に啓蒙していく必要がある。

4 今後について

Nanyo

活動に係る経費について

参加者の負担が増

公立中学校で年間にかかる・・・

部活動の費用	24,172円/年 約2,014円/月	メンバー構成：学校単位 指導者：教職員（資格なしも） 指導者報酬：なし 会場使用料：学校施設使用で0円 選べる範囲：選択肢が狭く・限定的
学校外活動費 （塾・習い事など）	367,776円/年 約30,648円/月	メンバー構成：地域単位 指導者：地域指導者（資格あり） 指導者報酬：一定額の設定 会場使用料：減免対象以外は実費 選べる範囲：選択肢は広がる

子どもの学習費調査（令和3年度 文科省）

部活動改革説明会資料より

- ・保護者に受益者負担について理解いただくための資料。
- ・部活動は、特殊な状況であったことを理解いただく

また、貧困世帯については、市の就学援助規定の中で、学校部活動に係る費用も一部負担している。現在多くの生徒が、学校部活動と地域クラブを両立して活動している状況のため、貧困世帯にとっても学校部活動として支援を受けている状況である。今後、学校部活動に加入せず地域クラブのみに参加する生徒ができた場合、検討課題となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

・学校の施設・設備・備品等を使用して、地域スポーツクラブ活動を実施する際の利用ルール（施設・設備・備品等の利用範囲や破損・紛失した場合の対応、施設の開閉手段・方法を含む）を策定する。

・学校部活動と地域クラブが同時に活動を展開することから、どのようなシステムで予約するかを確認していく必要がある。特に学校の施設利用の調整や設備・備品の使用については一定のルール作りが必要である。

取組の成果

市内の体育施設や文化施設、各小中学校の体育館やグラウンドなどについて借用方法、鍵の貸し借り、管理方法等について一斉の調査を行った。市の体育施設については、指定管理での一定の基準はあったが、学校施設については、学校間で大きな違いがあり、管理の窓口も学校が担う施設と公民館が担う施設が混在していることが分かった。他にも、施設利用料が発生する施設と減免の施設も混在しており、調整が必要なが分かった。

しかし、借用の窓口が明確になったことで、施設を使用したい時に、どこに連絡すればいいかが周知（資源マップにも記載）され、スムーズに施設の活用につなげることができるようになった。



R6地域スポーツクラブ体制整備事業で作成した、南陽市資源マップ

今後の課題と対応方針

これまで社会教育団体は、体育施設を減免（実質無料）で使用していた。しかし、現在整備中の地域クラブは社会教育団体を兼ねるクラブもあれば、兼ねていないクラブもあり、利用料が発生することも懸念される。ま

た、学校部活動を優先としながらも、利用可能な日を確認したうえで積極的な貸し出しや上記取り組みに記載の課題についても今後調整を図っていく必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域クラブ体制整備事業の中で、クラブの運営に係るスタッフのうち、**生徒への指導に係る指導者と謝金等の管理を行う事務員を分けて、地域クラブ全体の運営を試みた**。モデルとなる種目を10競技11団体設定して運営した。また、指導者には市独自の指導者研修会の受講を必須とし、指導にあたった。安全面での配慮を行いながら、**指導者はある程度指導に集中することができ、クラブに参加している生徒からも肯定的な意見が多く聞かれた**。実際多くの指導者からは、指導はできるが、事務的な手続きが苦手という課題も出ていたことから、事務的な役割をある程度一括して運営することは有効なものと捉える。

また、部活動改革について多くの保護者や市民にご理解いただくために、説明会を年2回開催し、情報発信に努めてきた。他にも、教職員向けの研修会も開催し、その方向性について小中学校とも共有しながら推進している。活動の主体となる児童生徒とその保護者については今後も継続して説明の機会を創出していく必要がある。

●成果の評価

多くの地域クラブからは、**指導者研修で生徒との関わりかたや自分の指導を振り返る機会となっていることについての評価や指導謝金がある事で、指導者の責任に対する自覚やモチベーションに繋がっている**との声を聞いている。重ねて事務的な機能を一括して運営いただくことは大変ありがたいが、**報告の書類等が煩雑になりがちで、指導者も事務員もスムーズに事務を行うためにも、簡略化されたシステム等の導入が望まれる**。

また、説明会を通して、今後の方向性や受益者負担への理解が進んできているものと感じている。他にも競技ごとの説明会などを通して、地域でスポーツを担っていこうという機運が浸透しつつある。今後も関係機関との連携のもと、丁寧に事業を進めると同時に、説明を行っていく必要がある。

●今後に向けて

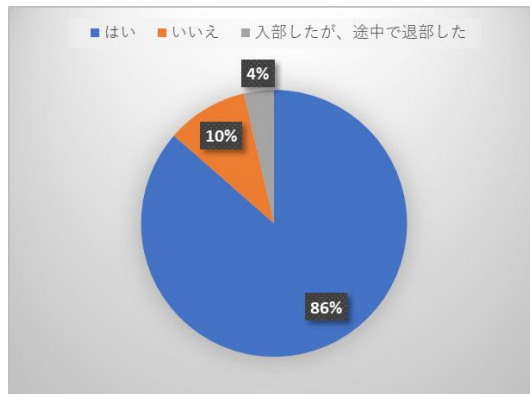
指導者や運営事務員の過負担軽減のために、**事務員と指導者、選手や保護者とつながる連絡システムの導入やホームページの作成など、情報伝達や周知のためのツールの活用を進めたい**。その上で事務の簡略化や施設利用管理についても検討を進めていきたい。事務員の確保やシステムの導入、ホームページ等の管理を考えたときには、人件費やシステムの使用料等の新たな支出もあることから、その財源をどのように確保していくかが今後大きな課題となるが、企業協賛等の新たな財源についても情報を集めて、クラブ運営を進められるようにしていく。

2.実証内容と成果②

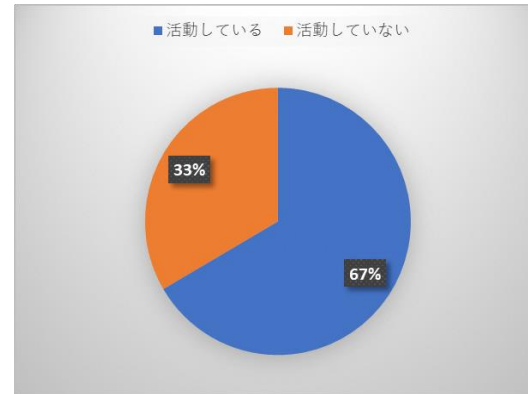
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

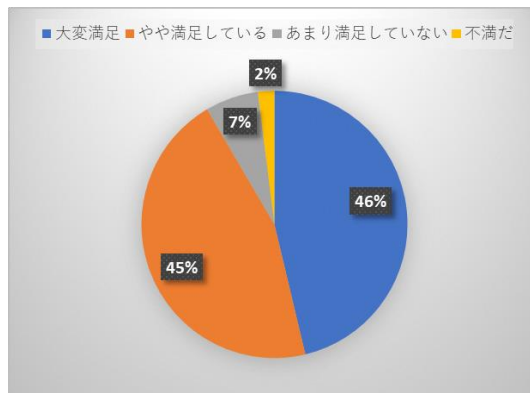
Q.あなたは部活動に加入していますか？
【部活動加入率】



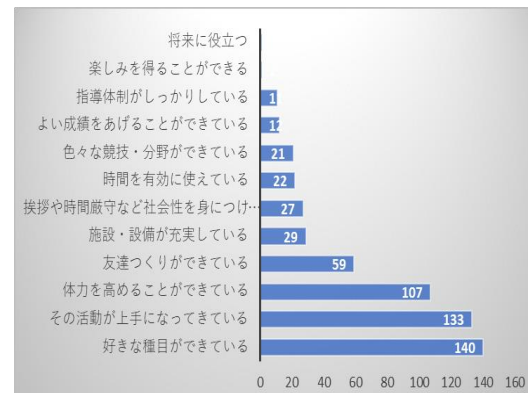
Q.あなたは部活動以外の外部での活動に参加していますか？



Q.現在あなたが行っている外部での活動等に対する満足度をお答えください。



Q.現在あなたが行っている活動に対する肯定的な理由は？（2つ選ぶ）



●参加者の声

中学1年生 男子

学校に部活がなくて競技をあきらめようと思ったが、地域クラブがあって競技に取り組むことができた。学校でも違う文化部の活動に取り組んでいて、活動は疲れるが毎日充実している。

中学3年生 男子

中学校部活動であれば、中体連の大会で引退だったが、クラブの活動には引退がなく、秋の東北大会へ参加することができた。この経験を活かして、今後も自主トレに励み、高校でも競技を続けたい。

指導者

小学校と中学校が同じ会場、同じ環境で練習を行っており「中学部」「小学部」のそれぞれのコーチが連携をとって指導にあたっている。先輩後輩が互いに刺激になる部分もあり大変良い。

指導者

指導者として登録してくれる若手ができていてありがたい。地域のスポーツ団体として、持続可能な活動にしていくなめにも、目の前にいる子供たちと新たな指導者をしっかり育てていきたい。

令和6年度山形県地域スポーツ・文化芸術活動に係る実態調査（南陽市）より

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

部活動改革の進捗や今後の地域クラブ活動がどうなっていくかを知っていただくためにチラシを作成した。対象として中学生、保護者、教職員、地域住民と設定し、説明会や意見交換会、講演会やモデル種目による体験

会を実施した。それぞれ、市のSNSや各中学校の保護者連絡メールを活用して広報をしたが、より多くの方へ周知するために、印刷したチラシも作成し、地域住民や保護者を中心に配付・広報した。

令和6年度 南陽市地域スポーツクラブ体制整備事業

南陽市部活動改革

説明会 & 意見交換会

望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築に向けて

南陽市では、国や県が示す方針やガイドラインに則り、部活動改革を進めております。改革の目安として設定している令和8年度に向けて、今後さらなる推進を図るため、説明会及び意見交換会を開催いたします。多くの方より部活動改革についてご理解いただき、そのあり方についてご意見をいただきたいと思います。子どもたちが輝く、地域スポーツ・文化芸術環境の構築に向けて、そのあり方を一緒に考えていきましょう。

令和7年 1月28日(火) **参加無料 事前申込**

時間 18:30~20:00
講師からの説明の後に、意見交換会の時間を考えております。

対象者 どなたでも参加いただけます。

参加方法 事前申し込みはQRコードで

会場 シェルターなんようホール / 小ホール **▲参加申し込みはコチラ**

講師
山形県教育局学校体育保健課(部活動改革)担当
＜テーマ＞
山形県における学校部活動改革の指針や、今後具体的などのような取組を各自自治体に期待しているのかについてお話しいたします。
また、来年度改訂予定の部活動に係るガイドラインについて、その方向性について現段階での進捗をご説明いたします。

説明
南陽市部活動改革検討委員会担当者

意見交換
南陽市部活動改革検討委員会事務局(進行)

お問い合わせ 南陽市教育委員会 学校教育課
TEL: 0238-40-3211(内線516) Mail: gakkyo2@city.nanyo.yamagata.jp

【部活動改革説明会チラシ】 出典:南陽市部活動改革検討委員会

令和6年度 南陽市地域スポーツクラブ活動体制整備事業

トップアスリート講演会

参加無料

11月30日(土)
13:30~15:00 (13:15~開会)

南陽市民体育館 (武道場)

講師 宇山 賢氏
「今チャレンジすることの大切さ」

対象 小学生・中学生・高校生
(保護者の方も講演会に参加可能です。◎別申込)

体験 15:15~16:30
南陽市民体育館 (メインアリーナ/武道場)
協力: 南陽市スポーツ協会 / 南陽市カローリング協会 / yamagata_athlete_lab

その他
13:00から武道場で受付開始、13:15から開会行事を開始します。
運動のできる服装でお越しください、内履きを持参下さい。

申し込み
右の2次元コードよりフォームに進み、必要事項を入力ください。
11月29日(金)正午までお申し込み下さい。
※児童生徒は講演会と体験会が原則セットでの申し込みとなります。

お問い合わせ先 南陽市地域スポーツクラブ活動体制整備事業 事務局
南陽市スポーツ協会 事務局 0238-49-2600
または 南陽市教育委員会 学校教育課 0238-40-8454

申し込み

カローリング 令和6年度モデル種目
コンデショニング 令和6年度モデル種目

【トップアスリート講演会】 出典:南陽市部活動改革検討委員会

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



指導者育成研修会①



指導者育成研修会②



トップアスリート講演会



部活動改革説明会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

・検討委員会設置
・モデル種目指定

・地域クラブの定義の確認
・生徒、保護者への説明

令和6年

・モデル種目の指定（追加）
・クラブ事務局仮運用

・説明会の開催
・収支の検証

令和7年

・地域クラブ活動の仮運用（システム化）

令和8年

・休日の学校部活動が原則なし
・地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

教育委員会、検討委員会

●経過

検討委員会の設立に合わせて、地域クラブのモデルとなる種目を指定した。

●実施にあたって生じた課題

- ・受け皿となる種目（団体）との連携の場
- ・指導者の質の向上
- ・受益者負担増（指導謝金や施設利用）

●実施内容、工夫した点 等

指導者や保護者との意見交換の場を設け、クラブ設立についての理解を求めていくとともに、課題等について共有した。また、施設使用の一部を事業費より支出し受益者負担が過負担にならないように配慮した。指導者の質の向上のために、指導者育成の研修会を実施し、指導面、安全面でのサポートを行った。

●ステークホルダー

教育委員会、検討委員会、各競技団体

●経過

地域クラブの運営をサポートする団体を整備し、運営に係る事務的な役割を担う、中間事務局を設置することが検討される。

●実施にあたって生じた課題

- ・事務局をどこが担うか、また運営に係る財源をどうするか
- ・地域クラブの指導者資格をどう設定するか

●実施内容、工夫した点 等

設立に向けて現在も検討中である。先進地への視察等を含め、事務手続きの流れや予算措置等についても今後の課題である。また、受益者の負担は一定程度発生することが確実な状況のなか、企業協賛など新たな財源の可能性等を模索し、活動への参加を希望する生徒が経済的な理由で、活動を断念することのないような体制について検討中。

●ステークホルダー

教育委員会、検討委員会、各競技団体

●経過

地域クラブをサポートする事務員の業務が煩雑となっており、スケジュールの管理や施設の借用などを一括管理できるシステムの導入など、事務の簡略化が望まれる。

●実施にあたって生じた課題

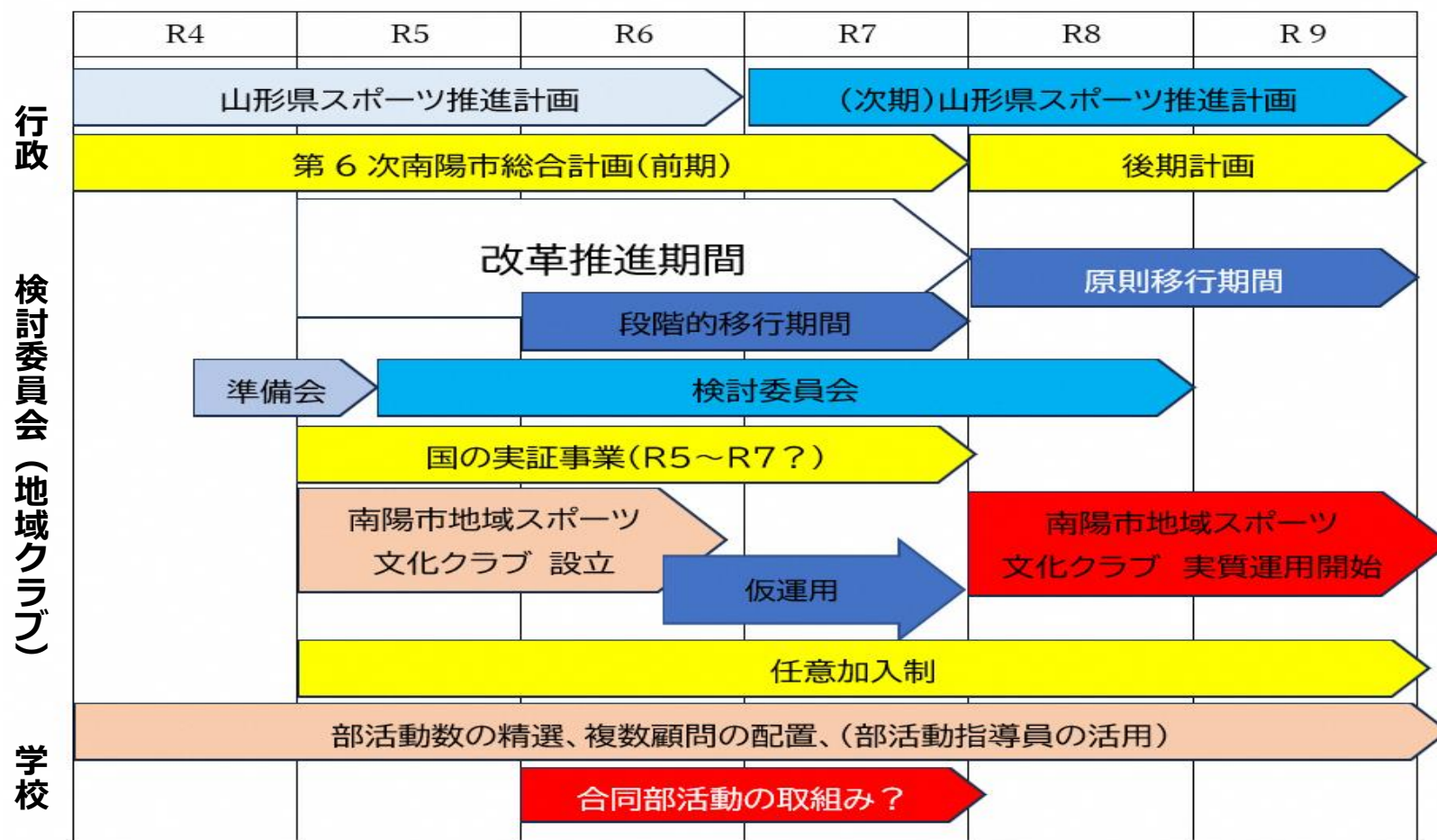
- ・施設借用の問題（既存団体への対応）
- ・システム使用料に係る財源
- ・システムを誰が中心となって管理していくか

●実施内容、工夫した点 等

現在、既存のアプリ（無料）などを各モデル種目で活用しており、連絡等についてはできるだけ簡略化を図っている。指導者、生徒、保護者のつながりは充実しているが、一括した管理や効果的な活用ができていない。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



R8 「原則休日の部活動を行わない」をめざす